

未来を担う若者の声で、政治をかえる

西臼杵支会代表 中山 智貴

みなさんは今の日本をどのように感じていますか？

先進国日本、豊かな国日本、平和な国日本、これらは私が幼い頃からよく耳にしてきた日本を表す言葉です。

しかし、私は今の日本はかなり厳しい状況にあると思います。

少子高齢化はもちろん、経済の面では、GDPがアメリカ、中国に次いで3位であったのが、日本はドイツに抜かれ4位に後退すると言われてしています。

また、日本は中国、北朝鮮、ロシア等に囲まれており、安全保障の面においても今後より一層厳しさが増すことが考えられます。

このような厳しい状況の中で、政治の担う役割は極めて大きいと私は思います。政治次第で、日本の進む道、将来が決まり、強いては私たちの生活に関わると言っても過言ではありません。ウクライナやイスラエルでの紛争を目の当たりにし、当たり前前の日常がどれほどありがたいことか痛感しています。

その政治に対して、私たちの声を届け、意見を反映させられる最大の機会が「選挙」です。

国会議員をはじめとする政治家は国民の代表と言われていますが、そうではなく、選挙に行った人の代表だと私は思います。少子高齢化により、若者よりも高齢者の人口が圧倒的に多く、高齢者は選挙によく行きますが、若者の投票率は低いままです。その結果、日本の政治はシルバーデモクラシーという高齢者に有利な政治が行われていると言われてしています。

しかしこのような状況下でも、今後の日本を支えるのは若者です。私は日本の未来を担う若者に対し、十分なバックアップ、支援が乏しいという矛盾した状況にあると強く感じています。

学生であれば、受験、就職活動、子育て時期であれば、保育所や育児費用、そして、将来的には年金や介護など、「いま」と「これから」を生きていくうえでの問題や不安は様々あります。でも、ただ現状に嘆いているだけでは何も変わりません。

若者の皆さん選挙に行きましょう。みなさんの声で政治を変えましょう。

若者のための政策を国会や地方議会で実現させるには、投票を通じて若者の存在を意識させることが一番重要だと思います。

若者の投票率を上げるためにも、小学校教育の場においては主権者教育を積極的に導入し、模擬選挙など子どもの頃から政治参加や意思決定の習慣化を身に付けていくべきだと思います。それが未来の有権者を育てることに繋がるのではないのでしょうか。

また、選挙でのインターネット投票などをマイナンバーカードを活用し本格的に検討すべきだと思います。

私は役場へ入庁し、これまで何度か選挙事務に従事させていただきました。投票所へいらっしやる有権者の方の中で、選挙権を持たない子供を連れて家族みんなで投票に来る人を見て、個人的にすごく良いな、と憧れを感じました。

実際に、親子連れ投票は子供の将来の投票につながっているというデータもあります。私が親の立場になったら、子供を連れて選挙に行きたいと思っています。そしてそんな光景が

日本でももっと当たり前になったらいいなと思います。

これからの日本を担い、未来を生きる者として、長期的な視点でどのような日本になってほしいか、投票という手段を通して表明することは私たち若者世代の義務であり、大きな責任だと思います。

たかが一票、されど一票。私たち若者の一票の積み重ねで日本は変わります。

だから、私は次の選挙にも必ず行きます。

若者のみなさん、一緒に選挙に行き、より良い日本の未来をつくっていきましょう。